

令和5年度

岐阜県東濃地区小学校国語科研究部会研究協議会

- 1 主催 岐阜県小中学校教育研究会小学校国語科研究部会
- 2 共催 中津川市教育委員会
- 3 日時 令和5年8月18日（金） 9：00～11：40
- 4 会場 中津川市立南小学校

5 研究テーマ

【岐阜県小学校国語科研究部会 研究テーマ】

生きてはたらく言語能力を高める国語科学習
—楽しくて、力がつく言語活動の工夫—

6 日程

| | 9:20 | 9:30 | | 10:00 | 10:10 | 10:25 | 10:45 | | 11:15 | 11:40 |
|---------|------|------|---------------------------|-------|-------|-------|-------|--|-------|-------|
| 受付（九時～） | | 開会 | 高学年 中学年 低学年 実践提案 | 休憩 | 質疑・応答 | 意見交流 | 講評 | | 閉会 | |

生きてはたらく言語能力を高める国語科指導 ～楽しくて、力がつく言語活動の工夫～

1 児童の実態（1年生 28人）

本学級の児童は、様々な学習活動に意欲的に取り組むことができる児童が多く、楽しみながら活動している様子が見られる。また、国語の教材やひらがなの学習で出てくる言葉に対し、「〇〇って何？」と興味を示すなど、語彙の獲得に意欲的な児童が多い。

一方で、自分の考えを发表或し交流したりすることに苦手意識をもつ児童が多く、活発な意見交流をすることが難しい。その原因として、大勢の前で考えを述べることに自信がもてないため、自分の考えを話す機会が少なく、交流することのよさを実感できていないことが考えられる。

これらの実態を踏まえ、児童が楽しみながら学習内容を身に付け、自信をもって自分の考えを話したり交流することのよさを実感したりできるような学習活動の工夫が必要であると考えた。

2 願う子どもの姿

本単元では、次のような児童の姿を目指している。

- ・身の回りで使われている語句を話や文章の中で使うを通して、語彙を豊かにする子
- ・文章の内容を捉え、考えたことや分かったことを自分の言葉でまとめたり相手に伝えたりすることができる子

3 研究内容（多治見市）

- (1) 単元（本時）で身に付けさせたい「生きてはたらく言葉」の明確化 【小国研(1)－③】
- (2) 「生きてはたらく言葉」を身に付けさせるための指導方法や学習活動の工夫 【小国研(2)－②】
- (3) 「生きてはたらく言葉」が身に付いたかどうかの評価方法と指導・援助の工夫 【小国研(2)－③】

4 研究実践

単元名 せつめいする文しょうをよもう

教材名 「じどう車くらべ」

本単元は後に位置付けられている「じどう車ずかんをつくろう」につながる単元である。そこでは、児童がそれぞれ紹介したい自動車を選んで自動車図鑑を作るという言語活動を位置付けた。そのため、次の単元の学習にも生かすことができるように、①仕事やつくりを表す言葉を選び出す ②言葉の意味を捉えることが大切であると考えた。これらの力を身に付けさせるために、単元を貫く言語活動を「じどう車の『しごと』と『つくり』をしらべてじどう車はかせになろう」と設定した。

- (1) 単元（本時）で身に付けさせたい「生きてはたらく言葉」の明確化

単元構造図の工夫

本単元には、1年生の児童にとっては聞き慣れない言葉もある。そこで、一つ一つの言葉の意味を丁寧に指導していくことが大切であると考え、単位時間に理解させたい言葉を選び出して単元構造図に位置付けた。（図1）

| | | |
|--|--|---|
| <p>分かるようにする。 ・「ごせき」の意味が分かるように挿絵に印を付ける。 ・自分が説明している様子を録音することで、字びを振り返ることができるようにする。 ・バスや乗用車について紹介されている動画を視聴し、「しごと」と「つくり」について</p> | <p>分かるようにする。 ・「にだい」の意味が分かるように挿絵に印を付ける。 ・自分が説明している様子を録音することで、字びを振り返ることができるようにする。 ・トラックの動画を視聴し、「しごと」と「つくり」について</p> | <p>分かるようにする。 ・「うで」「あし」が分かるように挿絵に印を付ける。 ・「つり上げる」の意味が分かるように動作化をして確認する。 ・自分が説明している様子を録音することで、字びを振り返ることができるようにする。</p> |
| <p>理解を深めることができるようにする。 生きてはたらく言葉 ・車高 ・狭い・狭い ・大きい・小さい ・そのために</p> | <p>ようにする。 生きてはたらく言葉 ・（運搬用の）ほか ・向台 ・狭い・狭い ・たくさん（多い）・少ない ・そのために</p> | <p>クレーン車の動画を視聴し、「しごと」と「つくり」について理解を深めることができるようにする。 生きてはたらく言葉 ・つり上げる ・のびたり、うごいたり ・じょうぶ ・そのために</p> |

【図1 単元構造図（一部抜粋）】

- (2) 「生きてはたらく言葉」を身に付けさせるための指導方法や学習活動の工夫

問い返し

本単元では、それぞれの自動車について「しごと」→「そのために」→「つくり」の順番で説明されている。その説明の順序を捉えるために、単位時間の始めには本文から仕事とつくりを抜き出してワークシートにまとめる活動を行った。仕事とつくりを確かめるなかで「どうしてそれが仕事（つくり）だとわかったの？」と問い返すことで「～仕事をしています。」「～つくってあります。」という説明の仕方に着目して内容を捉えることができた。

また、自動車のつくりを表す言葉について「もし荷台

が広くなかったら?」「もし、腕が丈夫じゃなかったら?」などと問い返すことで、自動車は仕事に合ったつくりになっていることに気付かせ、「そのために」という言葉の使い方を捉えることができるようにした。

挿絵とつなぐ

自動車のつくりの説明には、「座席」や「荷台」など、聞き慣れない言葉が多く使われている。また、クレーン車では



【図2 言葉と挿絵をつなぐ児童】

「腕」や「足」といった人の体に例えた説明もされている。そのため、その言葉が自動車のどこを表しているのかがわかるように、言葉と挿絵とを線でつないで確かめるようにした。(図2)

動作化

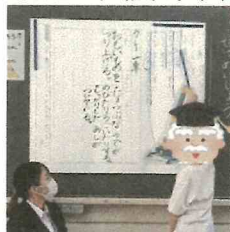
自動車のつくりを想像することが難しい言葉については、体を動かしたり具体物を使ったりして動作化を行った。(図3)自分自身が自動車になって腕を伸ばしたり動かししたりすることで、動きをイメージすることができ、なぜそのつくりになっているのかをより詳しく考えることができた。



【図3 動作化をする児童】

単位時間のパターン化

単位時間の終末には、毎時間それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を説明する活動を設定し、(図4)学習の流れのパターン化を図った。そうすることで、終末まで課題意識をもって学習に向かうことができると考えた。児童は終末でクレーン車について以下のように説明している。



【図4 自動車の説明をする児童】

クレーン車は、重い物をつり上げる仕事をしています。そのために、丈夫な腕が伸びたり動いたりするようにつくってあります。車体が傾かないように、しっかりした足がついています。しっかりした足がもしも弱かったら、車体が傾いたりしてしまいかもしれません。丈夫な腕がもし弱かったら、持っている物を落としてしまいかもしれません。

この児童は教科書の本文を読むだけでなく、本時学んだことについて自分の言葉で説明を付け加えることができた。これは児童が終末を見通し、これまでの言葉を身に付けるための学習活動に主体的に関わることで、本文の内容を捉えることができたからだと考えられる。

(3)「生きてはたらく言葉」が身に付いたかどうかの評価方法と指導・援助の工夫

ICTの活用

終末に自動車の仕事とつくりを説明する場面では、ICTを活用し自分が話す様子を動画で撮影する活動を位置付けた。(図5)自分が撮影した動画を見直すことで、自分が説明する様子を客観的に捉えることができると考えた。児童はより分かりやすく説明するために、挿絵を指し示したり自分の言葉で説明を付け加えたりするなど、工夫しながら何度も話す練習をすることができた。また、工夫して説明できている児童を価値付けて紹介することで、仲間の良さを取り入れながらより分かりやすい説明をする児童が増え、説明の回数を重ねるごとに以下のような変容が見られた。



【図5 説明の様子を撮影する児童】

<1回目>

クレーン車は、重い物をつり上げる仕事をしています。そのために、丈夫な腕が伸びたり動いたりするようにつくってあります。車体が傾かないように、しっかりした足がついています。(教科書を読む)

<2回目>

クレーン車は、重い物をつり上げる仕事をしています。そのために、丈夫な腕が伸びたり動いたりするようにつくってあります。車体が傾かないように、しっかりした足がついています。(挿絵を指し示しながら)

<3回目>

クレーン車は、重い物をつり上げる仕事をしています。そのために、丈夫な腕が伸びたり動いたりするようにつくってあります。車体が傾かないように、しっかりした足がついています。足がないと車体が傾いてしまうし、腕がないと荷物を吊り上げられません。(挿絵を指し示し、自分の言葉を付け加えながら)

話したことを動画に残し、自分の姿を見直して繰り返し話すことで、自信をもって話すことができた。また、児童が撮影した動画はロイロノートで教師に提出させることで、終末に代表で話す児童だけでなく全ての児童の評価にも活用することができた。

5 成果と課題

- 教師が単元を通して身に付けさせたい言葉を明確にもって指導することで、言葉の使い方や意味を正しく理解させることができた。 研究内容(1)
- 説明する動画を撮影し、自分を客観的に見直したり、仲間の良さを取り入れて繰り返し説明したりする活動を取り入れたことで、自信をもって発表させることができた。 研究内容(3)
- 児童が正しく語彙を獲得するために、教師がICTをより効果的に活用しながら、適切な指導方法を工夫する必要がある。 研究内容(2)

生きてはたらく言語能力を高める国語科指導 ～楽しくて、力がつく言語活動の工夫～

1 児童の実態

- 場面の様子や登場人物の行動など、叙述を基にして文章の大体の内容を捉え、想像することができる。
- 目的に応じて、中心となる語や文を捉え、事実と意見の関係を考えながら読むことができる。
- 自分の考えや学んだことを活用して書く力が弱い。

2 願うこどもの姿（研究テーマ設定の理由）

児童が見通しをもちながら課題解決に取り組む「主体的な姿」を目指すとともに、「書く力」を身に付けられるよう、県の研究テーマに即して、本校の研究テーマを「主体的に思いや考えを表現できる子を育てる国語科指導」と設定した。研究仮説を「単元の出口の言語活動を見通し、「付けたい力」を明確にした魅力ある言語活動を位置付け、主体的・対話的な学びを生み出す学習過程や学習活動を工夫すれば、言葉による見方・考え方を働かせ、自分の思いや考えを適切に表現できる子が育つであろう。」と考えた。また、国語の授業の中でICT機器をどの場面で、どのように活用することが有効なのかについても研究を進めることとした。

3 研究内容

(1) 単元について

①単元で付けたい力に即した言語活動の工夫

(2) 単位時間の学習過程について

②本時の付けたい力に迫るための有効な指導方法、指導・援助の工夫

4 研究実践

実践1 3年 れいの書かれ方に気を付けて読み、それをいかして書こう「すがたをかえる大豆」
科学読み物での調べ方「食べ物のみみつ教えます」

(1) 単元について

①単元で付けたい力に即した言語活動の工夫

魅力ある言語活動の位置付け

3年生では、社会科と総合的な学習の時間を関連させて、日吉町にある大豆畑で大豆の収穫を体験し、味噌工場である大竹醸造場を見学して、大豆がどのようにみそになるのかを学習している。その体験を活かすことができないかと考え、単元の出口の言語活動を「日吉の大豆のよさを分かりやすく2年生に説明しよう。」と設定した。単元の導入において、大竹醸造場の社長さんから「日吉の大豆のよさを明世小学校のみんなにアピールしてほしい」というお願いを聞くことで、言語活動に主体的に取り組むことができた。また、「2年生に伝える」という活動を設定することで、伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫するという必然性をもたせることができた。

書く力を身に付けさせるための言語活動

「すがたをかえる大豆」の読む活動では、大豆からできる食品の加工方法の例を多く挙げて説明することで説得力が得られること、例を挙げる順序にも工夫があることを学んだ。「食べ物のみみつを教えます」の書く活動では、「指導事項 B(1)ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。」を付けたい力とし、2年生に伝わる書き表し方を工夫した。

(2) 単位時間の学習過程について

②本時の付けたい力に迫るための有効な指導方法、指導・援助の工夫

出口がイメージできる必然のある導入

目標:2年生に日吉の大豆について説明する文章を書くために、文章の構成を考える活動を通して、説明する内容とそれを支える事例との関係性を意識して、「中」の例の順序とその理由を考えることができる。(10/14時)

学習課題:自分の考えに合った例の順番を考えよう。

本時は、日吉の大豆のよさについて分かりやすく説明するために、例の挙げ方を考えさせた。その手立てとして、導入において、教師が例の挙げ方をモデルとして提示し、その理由を説明した。これにより、児童は例の順序を考えることによさと本時の出口のイメージをもつことができた。

ICTの有効的な活用

児童のつまづきを予想し、個人追究、グループ交流、振り返りの活動でICTを活用した。個人追究では、例の順序を自分の考えに合わせるために、どのような手順で考えたらよいかを示した。グループ交流では、仲間に聞いてもらうための話し方を示した。それにより、自分の考えの根拠を明らかにし、分かりやすく説明することができた。また、教師が支援の必要な児童に指導する時間を生み出すことができた。

実践2 4年 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」(じょうほう「百科事典での調べ方」)

(1) 単元について

①単元で付けたい力に即した言語活動の工夫

魅力ある言語活動の位置付け

4年生では、社会科「特色ある地域とくらし」と国語科「世界にほこる和紙」の学習を関連させて、美濃和紙の歴史やすばらしさを学び、社会科見学で美濃市が和紙の町であることを実感させている。学んだことを活かしたいと考え、単元の出口の言語活動を「美濃和紙について小学生にも分かるリーフレットを作ろう」と設定した。また、本単元の導入において、「美濃和紙の里会館に展示してもらおうリーフレットを作る」という目的を話し、館長さんから「どんなことを学んだのか、リーフレットを読みたい」というお話があったことを伝えることで、主体的に取り組むことができた。

書く力を身に付けさせるための言語活動

「世界にほこる和紙」では、文章全体の組み立てについて考え、中心となる語や文を使って要約すること学んだ。「伝統工芸のよさを伝えよう」では、「指導事項C(1)ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。」を付けたい力とし、美濃和紙の「歴史、作り方、よさ、製品」を伝えるために必要な情報は何か、また自分の伝えたい思いを表現するためには、どの語や文を大事にしなければならないのかなどを考え、リーフレットを作成した。

(2) 単位時間の学習過程について

②本時の付けたい力に迫るための有効な指導方法、指導・援助の工夫

出口がイメージできる必然のある導入

目標: 中心となる語や文がある必要な段落を選び、それを用いて、「世界にほこる和紙」を百七十字以上二百字以内で要約することができる。(7/16時)

学習課題: 「世界にほこる和紙」を中心となる語や文を使って、百七十字以上二百字以内で要約しよう。

導入で、前時までに見つけた中心となる語や文、筆者の考えを確認し、字数の条件を提示した。更に必要な段落はどれか、見通しをもたせて要約文を書かせた。これにより、本時の出口のイメージをもたせるとともに、個人追究にスムーズに取り組むことができた。

ICTの有効的な活用

前時までに学習した要約の仕方など大切なことをまとめたものをスクールタクトに配付し、いつでも確認できるようにした。また、要約文をタブレット入力かプリントに手書きか、選択できるようにした。タブレット入力により、書くことが苦手な児童が抵抗なく取り組んだり、推敲しやすくなりできた。

5 成果と課題

(1) 単元について

①単元で付けたい力に即した言語活動の工夫

- 児童の実態を把握し、「付けたい力」を明確にした魅力ある言語活動を位置付けることができた。
- 目的意識、相手意識、方法意識を明確にしたことで、主体的に学習に取り組むことができた。(異学年と学び合い、瑞浪市や他市へ発信)
- 国語だけにとどまらず、他教科の学びを活用したり、関連付けたりすることで、学びがより深まった。
- どの教科のどの単元と関わらせていくのか、資質・能力を身に付けさせるために適切かどうか、それらを見極め、計画を立てる必要がある。

(2) 単位時間の学習過程について

②本時の付けたい力に迫るための有効な指導方法、指導・援助の工夫

- 導入で単元出口の作品のモデルを提示することで、学習活動への見通しと完成作品のイメージをもたせることができた。
- 学習したポイント(読み取り方・説明の仕方・まとまりの中心となる語や文・書き表し方の工夫など)を、板書に提示、教室側面に掲示、タブレットに配付(ICT活用)など、課題解決のための手立てを示すことによって主体的に学習に取り組むことができた。
- 一単位時間で児童が習得した学びを児童自身が自覚できる評価の観点や評価の仕方をより明確にする。
- 児童自身が学びを実感できるように、教師が適切な評価や価値付けができるようにする。

生きてはたらく言語能力を高める国語科指導

～楽しくて、力がつく言語活動の工夫～

ICTを活用した読み取りにおけるベストミックスを目指して

1 児童の実態と主題設定の理由

恵那市では、ICTを取り入れた学習にいち早く取り組み、国語科でも実践を重ねてきた。一人読みのときにはロイロノートに本文を配付し、そこに線を引いたり付箋機能を使って書きこんだりした。また、教師がヒントカードを準備しておき、児童は必要に応じてそれらを活用しながら自力で読み取りを進めていくこともできた。全体交流においては、自分の画面を共有画面に映し、それを指し示しながら読み取ったことを述べ、まとめにおいては、ノートに書いたこと等を写真に撮り、蓄積していった。このように、どの学校においてもICTの活用は順調に進められているといえる。しかし、私たちは実践を重ねていくうちに、ICTを使用することが必ずしも効果的とはいえない部分があるのではないかと感じ始めている。

高学年においては、基本的なタブレット操作方法は身につけており、課題に向かって意欲的に学習することができる。叙述に基づき言葉に着目する力も概ねついてきており、自分の考えを伝えたいという気持ちも高まってきている。しかし、自信をもって自分の考えを書いたり発言したりできず、その結果仲間同士で深め合うことが不十分な場面もみられる。

ICTを活用することありきから一歩進み、児童の「読む力」が高まるよう既存の授業に効果的にICTを取り入れるといった「ベストミックス」な授業を追究したいと考えた。

2 研究仮説

どの子も根拠のある考えをもち主体的・対話的で深い学びを実現するために、単元構想と言語活動の工夫をし、必要に応じたICTの活用と対話を大切にした協働学習の場の設定をすれば、自信をもって発表し深め合い、読むことの楽しさを感じることができるのではないかと考えた。

3 研究内容

(2) 単位時間の学習過程について

- ①単位時間の付けたい力を明確にした展開の工夫 ～誰もが主体的に取り組める単元計画と言語活動の工夫～
- ②本時の付けたい力に迫るための有効な指導方法、指導・援助の工夫
～どの子も根拠のある考えをもつためのICTを活用した支援～ ～対話を大切に

4 研究実践① 昨年度の実践

第6学年 単元名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう 教材名 「鳥獣戯画」を読む

① 単位時間の付けたい力を明確にした展開の工夫

1時間の授業過程を次のように設定した。

- ①導入 ②課題提示 ③範読を聞き課題に対するキーワードに線を引く ④一人読み(ノートに選んだ言葉と選んだ理由を書く。) ⑤全体交流 ⑥深めの発問 ⑦まとめ

本単元では、単元を貫く課題を「著者の鳥獣戯画の素晴らしさを伝える書き方の工夫を見つける」として学習を進めた。こうすることで、児童は毎時間目的的に読み進めようとする意欲をもつことができた。また、単位時間の深めの発問で、読み取らせたい工夫がつかめるように「辞書」「(言葉の)あるなし」「置き換え」「つなげて」などの「読み取りの技」を指導した。児童が「読み取りの技」を身につけることで、書き方の工夫に気づけるようになった。単元の出口は、「社会科見学のリーフレットを作る」という言語活動を設定すること

で、毎時間の学習の積み重ねを活かせるようにした。

② 本時の付けたい力に迫るための有効な指導方法、指導・援助の工夫

あらかじめ教科書をロイロノートに入れて児童に配付し、一人読みでは範読を聞きながら線を引いたものを提出箱に提出させて机間指導を行った。その結果、線の引けない児童への意図的な声かけの見通しがもて、ヒントが必要な児童にも、更に読み取ってほしい児童にも的確な指導援助をすることができた。また、考えはノート（上段：線を引いた文や言葉、下段：考え）に書き込むようにした。このことにより、すべての児童が教科書の言葉を根拠とし、考えをもつことができた。しかし、ロイロノートとノートを併用することは実態によっては煩雑になったり、考えをノートに書く間にロイロで線を引いたときの考えとずれていたりすることが見られた。また、深めの発問の後、全体交流をする前にペア交流する協働学習を取り入れた。実際にタブレットを指し示しながら話すなどを継続していくことで、相手の考えを認めつつ自分の考えを分かるように伝えようとする姿が見られるようになった。その結果、全体交流でもペア交流した内容を活かし、仲間の考えをよく聞き、意見を膨らましながら深め合うことができるようになった。

このように、ロイロノートを有効に使いつつも、言葉から読み取った考えをどのように整理するとよりよい対話に結び付くのかといった課題が残った。読む力を確実に身につけさせるには、直接ノートに書いて考えを整理することが大切ではないかと考え、よりよいベストミックスを目指して次の実践に向かった。

5 研究実践② 今年度の実践

第5学年 単元名 文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう 教材名 「見立てる」「言葉の意味が分かること」

① 単位時間の付けたい力を明確にした展開の工夫

本単元でも、単元を貫く課題を「書き方の工夫を読み取ろう」として学習を進めた。授業の流れも前年度と同様にパターン化することで、児童が学習の見通しをもち、毎時間目的的に読み進めようとする意欲をもつことができた。まとめは、ノートに①筆者の言いたいこと②書き方の工夫③そのよさの3点でまとめ、書いたものをロイロノートで撮影して提出箱に入れた。ノートに考えを書くことを大切にしつつ、自分のまとめが蓄積され一目でみられるようにすることで、単元の出口「要旨をまとめて、自分の考えを発表する」につなげることができた。

② 本時の付けたい力に迫るための有効な指導方法、指導・援助の工夫

一人読みでは、教科書の本文をロイロノートで配付せず、児童のノートに印刷したものを貼った。ICTを活用しなくても、ノートの本文や下部に、「読み取りの技」（つなぐ言葉・原因・結果など）を使いながら、線をひいたりつないだりして、自分の考えを書き込んで整理していくことができた。また、「ヒントカード」を2～3枚に精選（①最低でも読み取ってほしいこと②さらに考えてほしいもの）して、資料箱に入れるようにした。ヒントを与えずに、読み取りに不安を感じている児童が自分で選択して使用できるようにすることで、児童が自分の力で読み取りを進めていくための確かな手立てとなった。机間指導においても、教師が明確な観点をもっていれば、ロイロで提出させなくても個別最適な声かけができ、全体交流での意図的指名につながった。

6 成果と課題

- 1時間の授業過程をパターン化し単元を貫く課題を設定することで、目的的に読み進める意欲につながった。
- 「読み取りの技」を指導することで、児童が技を身につけて書きぶりの工夫に気付けるようになった。それにより、自分の考えに自信をもち、ペア交流や全体交流で深め合うことができた。
- ヒントカードを精選して、児童が自己選択できるようにしたことで、一人読みにおけるベストミックス（ICTを必要とときに必要なだけ使う）ができた。また、ノートに考えを書くことで考えを整理することができた。
- 児童の実態に応じた、読み取りの力がつく方法を探求していく。ICTはそのための一つの方法として捉え、更なるベストミックスを目指したい。
- 学びの実感を確かなものにするため、本時のまとめを充実させたい。思考の過程を具体的に書いてまとめ、一層蓄積していくようにしたい。

皆様の貴重なご意見をお願いいたします（アンケート）

岐阜県小学校国語科研究部会

本日はご多用の中、ご参会いただき誠にありがとうございました。

皆様のお意見を糧に、次年度の研究協議会について、さらによりよいものを求めていきたいと思っております。忌憚のないご意見をお聞かせください。また、提案者の先生へのご意見、ご感想もぜひ、よろしくお願いいたします。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

学校名

お名前

お手数ですが、この用紙をメール・FAX等で岐阜小学校（湯浅）までお送りください。（FAXの場合、この用紙のみ送っていただければ結構です。）

ご協力ありがとうございました。

| |
|--|
| 事務局 岐阜市大工町1番地 岐阜市立岐阜小学校 〒500-8038 電話(058)265-6388 FAX(058)265-6389 e-mail gisyo01@gifu-e.gifu-gif.ed.jp 担当 湯浅 創 |
|--|